

ホクレン営農支援情報

(2018年12月号)

●担い手向け研修会（トマト）に21名が参加 《営農支援推進課》

営農支援推進課では11月14日～15日に「平成30年度担い手向け研修会（トマト）」を札幌市内のホクレン研修センターで実施し、道内の生産者など21名が参加しました。

研修は「トマト栽培に関する基礎知識の習得」と「担い手同士のつながりの強化」を目的としています。ホクレンや北海道の職員からトマト栽培の基礎や地域の事例紹介などが行われたほか、受講者同士で課題を共有しアドバイスし合う「総合討論」で意見交換を行いました。また、1日目の研修後に懇親会を実施。世代や地域の枠を超えて、生産者同士が交流を深めました。

今後12月に「小麦・大豆」、2月に「水稻」をテーマとした同様の研修会を実施する予定です。



「総合討論」で議論する受講者



研修センターの食堂で行われた懇親会

●「オホーツク・スマート農業セミナー2018【酪農・畜産】」を実施 《北見支所 営農支援室》

担い手不足や高齢化、農家戸数の減少などはオホーツク管内でも深刻です。そのため労

働力不足に対応した省力化技術としてのスマート農業への期待は大きくなっています。

そこで、今年4月に発足したオホーツク・スマート農業推進会議（振興局、農業試験場、農業改良普及センター、ホクレン等で構成）は11月8日（木）にセミナーを開催し、生産者など約140人が参加しました。セミナーでは、受胎率向上や分娩事故の低下を目的としたウェアラブル生体センシング技術や、搾乳ロボットの紹介などが行われました。機器類の展示も行われ、参加者は担当者の説明を熱心に聞き入っていました。

なお、平成31年には畑作に関するセミナーを開催予定です。



● 「TAC パワーアップ大会 2018」で JA あさひかわがダブル受賞 《旭川支所

営農支援室、営農支援推進課》

11月15日（木）～16日（金）の2日間にわたり、全農が主催する当大会が横浜で開催されました。

TACとはJA・県連が一体となり、地域農業の担い手に出向く体制を確立し、担い手の意見・要望を聞いたうえで事業提案や業務改善を図り、担い手の収益拡大や地域農業の発展につなげる活動をいいます。北海道では営農支援室や営農支援推進課が全農とともに活動の普及に努めています。当大会はその活動を実践する優秀なJAやTAC担当者の功績を称え表彰し、全国に向けその内容を公表するものです。

今回は道内から JA あさひかわが JA 表彰と TAC 表彰をダブルで受賞し、特産品である米やそば、黒大豆の普及推進や付加価値販売、大雨等の被害へのサポート活動が高く評価されました。

大会には JA あさひかわのほか道内から 4 JA が大会に参加し、全国の JA 関係者と交流を図り、府県での取組みについて情報収集を行いました。



表彰を受ける JA あさひかわ

●**厳寒地における冬野菜 微加温栽培が始まりました**《訓子府実証農場 農産技術課》

訓子府実証農場では、厳寒地における冬季の野菜供給や雇用機会の創出を目的に、冬季栽培試験を実施しています。畑作物収穫後に取り組むことのできるモデルを作るため、11月上旬から微加温栽培の試験をスタートしました。ほうれんそう、小松菜、リーフレタスを栽培し、9月下旬から開始した無加温栽培との比較を行っています。

ご興味のある方は訓子府実証農場 農産技術課までご連絡ください。(Tel.0157-47-2130)



9月下旬設置



11月上旬設置

●大型トラクターと真空播種機を活用した生産性の向上 《帯広支所 営農支援室》

帯広支所では、自動操舵トラクターと真空播種機を組み合わせによる作業で、各作物の生産性向上を目的とした試験に取り組みました。

今回使用した機器では、次の作業が可能になります。

- ① それぞれの播種ユニットが、播種する位置（場所）を自動で認識して播種。
- ② 1反当たりの播種量と畦間を設定することで、自動的に株間を計算して播種。
- ③ 千鳥播種。
- ④ トラクターが重複走行した地点でも播種は重複しない。
- ⑤ 播種ユニットを動かし、畦間を45～80 cmで設定できるため、さまざまな作物で使用可。

2年間の実証試験では、

- ① 非常に高精度な播種ができる。
- ② 1台の真空播種機でさまざまな作物の播種ができる。
- ③ 大型作業機であることから作業時間を短縮できる。

ことなどを確認しました。

この取組みの詳細については、[アグリポート 16号](#)をご覧ください。



真空播種機による播種作業の様子



飼料用とうもろこしの千鳥播種

●アグリポート 16 号を発刊 《営農支援推進課》

12月1日にアグリポート16号を発刊しました。特集は「農業経営の基礎講座」です。生産者の皆さんは次年度の営農計画づくりに忙しく過ごされているのではないかと思います。今回の特集では営農計画を立て実践するためのポイントや、経営改善に取り組む生産者や地域の具体的な事例を取り上げています。

その他、直播用の水稻新品種「上育471号」や、ホクレンがおすすめする野菜類や花きの品種についても紹介しています。

次年度により良い営農をするための参考にさせていただけると幸いです。

なお、冊子22ページの図5の数値に誤りがありました。お詫びして右図のとおり訂正いたします(ホクレンHP上のウェブ版は訂正済みです)。

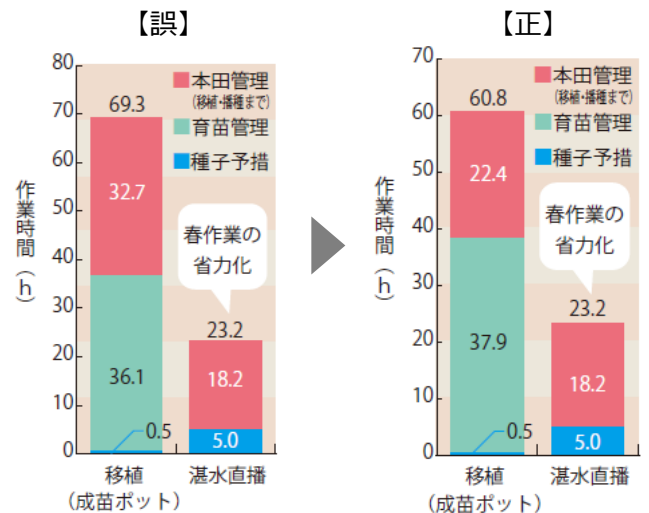


図5. 春作業時間の比較
※北海道農業生産技術体系 (第4版) より抜粋して作成

図5. 春作業時間の比較
※北海道農業生産技術体系 (第4版) より抜粋して作成

アグリポート16号22ページ図5. の訂正

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp